

## 第2章 子ども・子育てを取り巻く状況

### 1 子どもや子どものいる家庭の状況

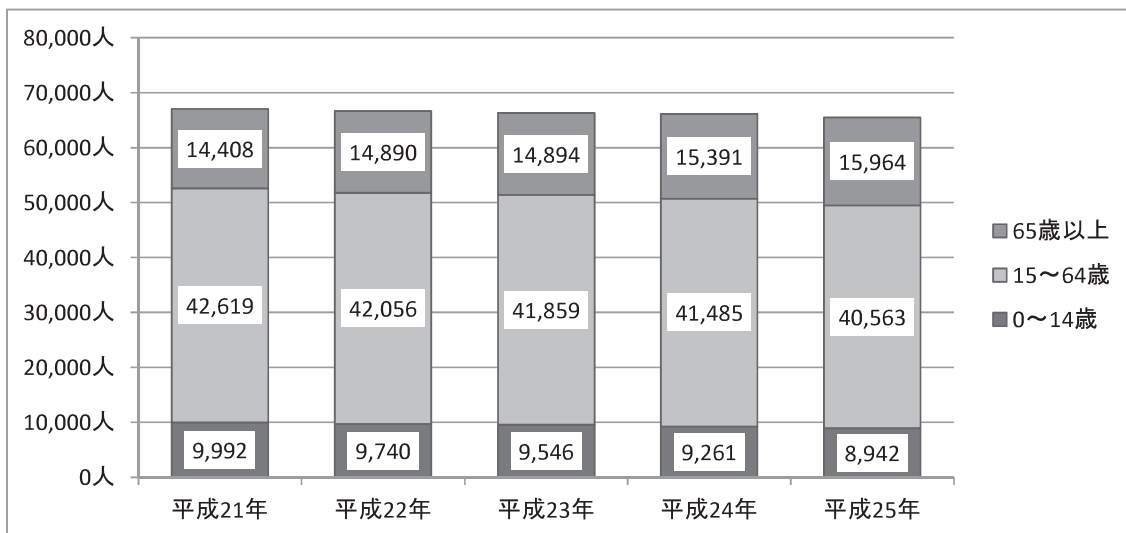
#### 1-1 人口の推移

本市の総人口は、平成25年4月1日現在 65,469人となっており、平成21年と比べると、1,550人減少しており、年々減少傾向という状況です。

年齢区分別に見ると、平成25年4月1日現在、年少人口（0～14歳）は8,942人（13.7%）で、平成21年と比べると、1,050人の減少となっており、年少人口の割合は、全国平均は上回るものの、県平均を下回る水準となっています。

世帯数は、平成25年4月1日現在 25,539世帯となっており、平成21年と比べると、993世帯増加している一方、世帯人員は2.56と、こちらは減少傾向となっています。

図表5 年齢3区分別人口の推移（単位：人、世帯）



区分	本市					県	全国
	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成25年	平成25年
0～14歳	9,992 14.9%	9,740 14.6%	9,546 14.4%	9,261 14.0%	8,942 13.7%	1,069,042 14.3%	16,778,976 13.1%
15～64歳	42,619 63.6%	42,056 63.1%	41,859 63.1%	41,485 62.7%	40,563 62.0%	4,782,785 64.1%	80,626,569 62.8%
65歳以上	14,408 21.5%	14,890 22.3%	14,894 22.5%	15,391 23.3%	15,964 24.4%	1,610,922 21.6%	30,968,259 24.1%
総人口	67,019	66,686	66,299	66,137	65,469	7,462,749	128,373,804
世帯数	24,546	24,721	24,825	24,948	25,539	3,072,876	55,577,563
世帯人員	2.73	2.70	2.67	2.65	2.56	2.43	2.31

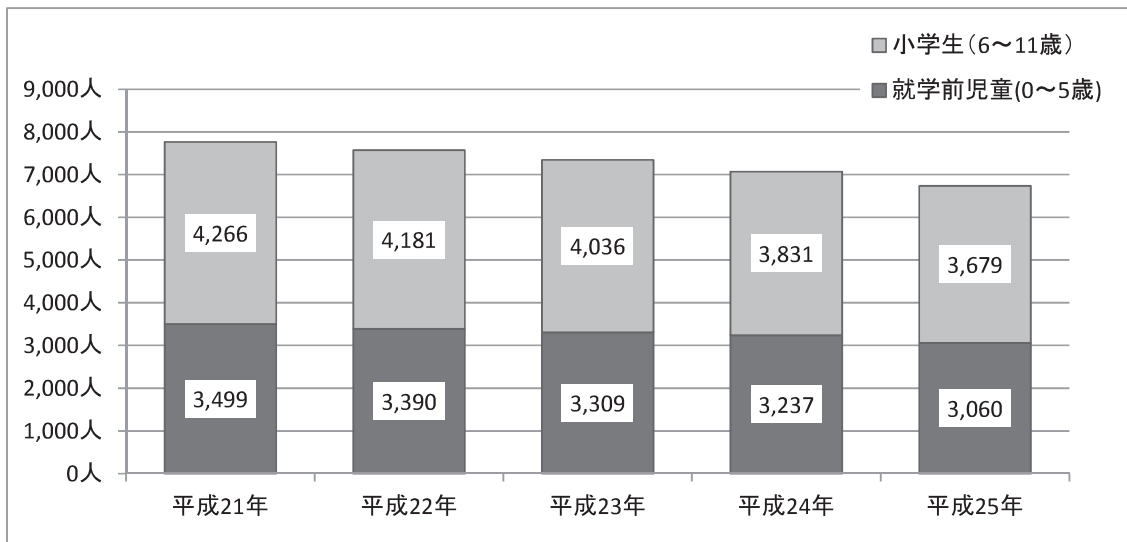
資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

全国及び県は、住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（平成25年3月31日現在）

## 1-2 児童数の推移

本市の児童数(0～11歳)は、平成25年4月1日現在6,739人となっており、平成21年と比べると1,026人減少しており、就学前児童(0～5歳)が439人の減少、小学生(6～11歳)は587人の減少となっています。

図表6 0～11歳人口の推移(単位:人)



区分		平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	増減(平成21～25年)
就学前児童	0歳	521	542	510	437	396	-125
	1歳	553	529	560	539	453	-100
	2歳	595	552	535	563	543	-52
	3歳	567	594	553	545	564	-3
	4歳	617	556	592	558	550	-67
	5歳	646	617	559	595	554	-92
	小計	3,499	3,390	3,309	3,237	3,060	-439
小学生	6歳	685	631	614	553	585	-100
	7歳	658	675	635	613	548	-110
	8歳	727	654	674	636	601	-126
	9歳	744	723	653	667	634	-110
	10歳	760	746	716	649	662	-98
	11歳	692	752	744	713	649	-43
	小計	4,266	4,181	4,036	3,831	3,679	-587
合計	7,765	7,571	7,345	7,068	6,739	-1,026	

資料:住民基本台帳(各年4月1日現在)

### 1-3 世帯構成

本市の一般世帯数は、平成 22 年 10 月 1 日現在 23,484 世帯と、増加傾向となっています。

これを世帯構成別に見ると、「その他の親族世帯」が減少する一方、「核家族世帯」、「非親族世帯」、「単独世帯」が増加しています。

また、核家族世帯については、「夫婦と子どもからなる世帯」をはじめ、いずれの世帯も増加しています。

「女親と子どもからなる世帯」の割合は、平成 22 年 10 月 1 日現在 7.5%となっており、ひとり親家庭は「男親と子どもからなる世帯」を含めて増加傾向となっています。

子どもがいる世帯の推移を見ると、平成 22 年 10 月 1 日現在、6 歳未満親族がいる一般世帯が 2,508 世帯、18 歳未満親族がいる世帯が 6,642 世帯となっており、いずれも減少傾向となっています。

図表7 世帯構成の状況（単位：世帯、％）

区分	本市			県	全国
	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 22 年	平成 22 年
一般世帯数※	21,356	22,282	23,484	2,929,943	51,842,307
核家族世帯	13,892	14,456	14,834	1,684,702	29,206,899
	65.0%	64.9%	63.2%	57.5%	56.3%
夫婦のみの世帯	4,129	4,515	4,840	557,931	10,244,230
	19.3%	20.3%	20.6%	19.0%	19.8%
夫婦と子どもからなる世帯	8,227	8,109	7,893	897,439	14,439,724
	38.5%	36.4%	33.6%	30.6%	27.9%
男親と子どもからなる世帯	292	315	333	36,261	664,416
	1.4%	1.4%	1.4%	1.2%	1.3%
女親と子どもからなる世帯	1,244	1,517	1,768	193,071	3,858,529
	5.8%	6.8%	7.5%	6.6%	7.4%
その他の親族世帯	3,719	3,500	3,116	295,221	5,308,648
	17.4%	15.7%	13.3%	10.1%	10.2%
非親族世帯	98	83	170	25,987	456,455
	0.5%	0.4%	0.7%	0.9%	0.9%
単独世帯	3,647	4,243	5,364	923,424	16,784,507
	17.1%	19.0%	22.8%	31.5%	32.4%

資料：国勢調査 ※不詳を含む

図表8 子どものいる世帯の状況（単位：世帯、％）

区分	本市			県	全国
	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 22 年	平成 22 年
一般世帯数	21,356	22,282	23,484	2,929,943	51,842,307
6歳未満親族のいる一般世帯数	3,248	2,982	2,508	315,189	4,877,321
	15.2%	13.4%	10.7%	10.8%	9.4%
18歳未満親族のいる一般世帯数	7,125	6,975	6,642	744,350	11,989,891
	33.4%	31.3%	28.3%	25.4%	23.1%

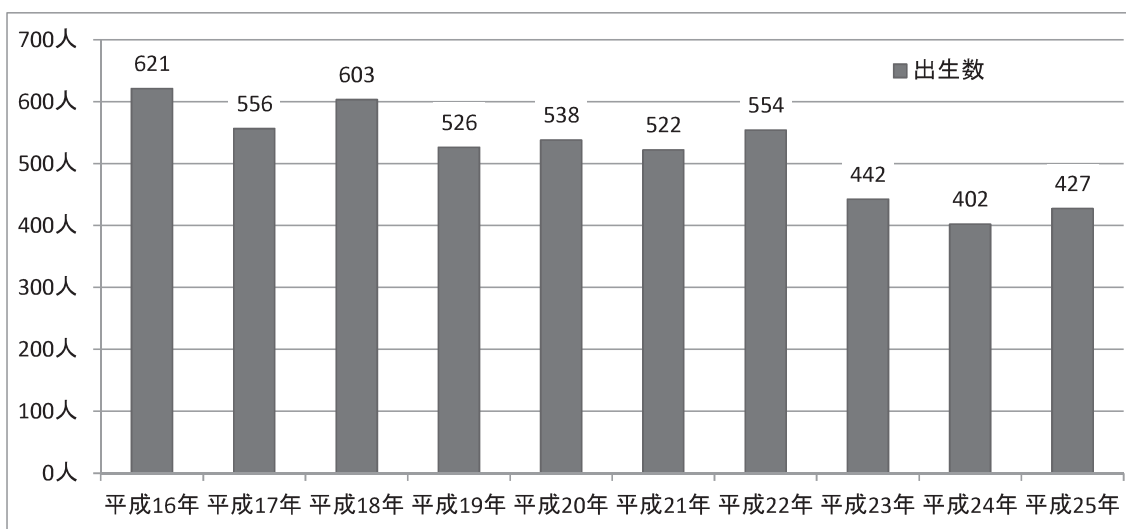
資料：国勢調査

### 1-4 出生数及び合計特殊出生率

本市の出生数は、平成 25 年で 427 人となっており、年によって増減が見られるものの、概ね減少傾向となっています。

また、合計特殊出生率は、平成 20 年～平成 24 年の平均で 1.38 となっており、全国平均と同水準で、県平均は下回る水準となっています。

図表9 出生数（単位：人）



資料：人口動態統計

図表10 合計特殊出生率

区分	昭和 58 年～ 昭和 62 年	昭和 63 年～ 平成 4 年	平成 5 年～ 平成 9 年	平成 10 年～ 平成 14 年	平成 15 年～ 平成 19 年	平成 20 年～ 平成 24 年
津島市	1.71	1.47	1.49	1.46	1.36	1.38
県	1.81	1.57	1.48	1.42	1.39	1.51
全国				1.36	1.31	1.38

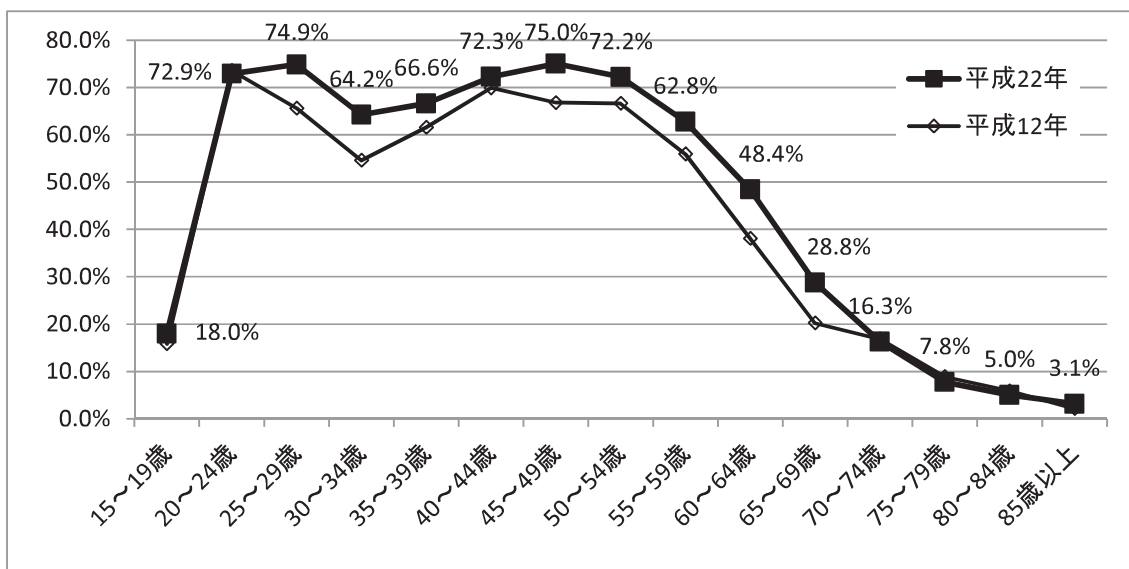
資料：人口動態保健所・市区町村別統計

## 1-5 女性の労働力率

女性の労働力率（15歳以上人口に占める労働力人口（就業者＋完全失業者）の割合）は、結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するという、いわゆるM字カーブを描いています。

平成22年は、平成12年と比べてM字の谷の部分の部分が浅くなっており、既婚女性の労働力率の上昇が見られるとともに、平成12年では20歳代前半から後半にかけて大きく低下が見られましたが、平成22年では上昇しているなど、晩婚化の影響もうかがえます。

図表11 女性の労働力率（単位：％）



資料：国勢調査

## 2 教育・保育施設の状況

### 2-1 保育園

本市には、公立2園、私立9園、計11園の保育園があり、そのうち5園で一時的保育を実施しています。

保育園の在園児童数は、平成25年4月1日現在1,071人となっており、平成21年と比べて0～2歳では増加、3～5歳では減少となっています。

図表12 保育園の状況（平成26年4月1日現在）

区分	保育所名	所在地	定員	開所時間	一時的保育
公立	共存園保育所	東洋町 2-34	60	(平日)午前7時～午後7時 (土曜)午前7時～午後2時	◎
公立	新開保育園	新開町 5-6	115	(平日)午前7時～午後7時 (土曜)午前7時～午後2時	◎
私立	東愛宕保育園	東愛宕町 2-83	60	(平日)午前7時～午後7時 (土曜)午前7時～午後2時	◎
私立	神守保育園	神守町字古道 8	120	(平日)午前7時～午後7時 (土曜)午前7時～午後2時	
私立	蛭間保育園	蛭間町字高瀬 831	60	(平日)午前7時30分～午後6時 (土曜)午前7時30分～午後1時	◎
私立	神守南部保育園	神尾町字江西 84	110	(平日)午前7時～午後7時 (土曜)午前7時～午後7時	
私立	三和第一保育園	大縄町 9-43	160	(平日)午前7時～午後7時 (土曜)午前7時～午後5時	
私立	三和第二保育園	城山町 1-1	120	(平日)午前7時～午後7時 (土曜)午前7時～午後5時	
私立	藤浪保育園	寺前町 2-71-1	120	(平日)午前7時～午後7時 (土曜)午前7時～午後7時	
私立	唐臼保育園	唐臼町郷裏 55	120	(平日)午前7時～午後7時 (土曜)午前7時～午後7時	
私立	神島田保育園	中一色町東郷 4	90	(平日)午前7時～午後7時 (土曜)午前7時～午後2時	◎
合計			1,135		

資料: 児童課

図表13 保育園在園児童数の推移（各年4月1日現在）(単位: 人、所)

区分	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	21→25年の増減
0歳	27	35	33	40	30	3
1歳	111	119	125	146	121	10
2歳	178	156	165	167	197	19
0～2歳計	316	310	323	353	348	32
3歳	227	250	229	218	229	2
4歳	256	227	258	237	243	-13
5歳	285	267	245	268	251	-34
3～5歳計	768	744	732	723	723	-45
合計	1,084	1,054	1,055	1,076	1,071	-13

資料: 児童課

## 2-2 幼稚園

本市には、公立1園、私立4園、計5園の幼稚園があります。

平成25年5月1日現在、幼稚園在園児童数は660人となっており、年々減少傾向となっています。

図表14 幼稚園の状況（単位：人）

区分	幼稚園名	住 所	定員	学級数
私立	昭和幼稚園	葉苺町稲葉 33-2	209	7
私立	百島幼稚園	百島町牛屋 41	200	6
私立	瑞泉寺つしま幼稚園	舟戸町 40	280	10
私立	双葉幼稚園	西柳原町1-53	150	6
市立	津島幼稚園	古川町3-64	105	5
合計			944	34

資料：児童課

図表15 幼稚園在園児童数の状況（各年5月1日現在）（単位：人）

区分	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	21→25年の増減
3歳	248	223	231	226	221	-27
4歳	283	245	216	223	217	-66
5歳	286	284	235	216	222	-64
合計	817	752	682	665	660	-157

資料：学校基本調査

## 2-3 小学校

本市には、小学校が8校設置されており、児童総数は平成25年5月1日現在3,662人と、平成21年と比べて564人の減少となっています。

図表16 小学校児童数、学級数の推移（各年5月1日現在）（単位：人）

区分	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	21→25年の増減
学校数	8	8	8	8	8	0
学級数	145	144	140	136	135	-10
児童総数	4,226	4,134	4,001	3,793	3,662	-564
1年生	681	622	609	545	582	-99
2年生	649	668	629	606	544	-105
3年生	718	646	669	632	597	-121
4年生	741	712	647	662	632	-109
5年生	751	741	706	643	661	-90
6年生	686	745	741	705	646	-40

資料：学校基本調査

## 2-4 児童館

本市の中央児童館は、児童を対象に、健全な遊びを提供し、豊かな情操を育むこと、子育て支援を行うことを目的とする施設です。

開館時間は、午前9時30分から午後5時まで、休館日は、水曜日午後、木曜日・国民の休日・年末年始などとなっています。

図表17 児童館

児童館	所在地	開館時間	休館日
中央児童館	橘町5-18	午前9時30分から 午後5時まで	水曜日午後、木曜日・国民の休日 (木曜日に当たるときは翌日も休館)ただし、こどもの日を除く・年末年始

資料: 児童課

## 2-5 放課後児童クラブ（学童保育）

放課後児童クラブ（学童保育）は、放課後、自宅に帰っても保護者がいない共働き家庭や、母子・父子家庭などを対象とする施設で、小学生に遊びを主とする健全育成活動を行う事業です。

本市では、小学校6年生までの児童を対象に、各小学校区に1つ、計8クラブを整備しており、入所児童数は平成25年4月1日現在357人となっており、いずれのクラブにおいても、障がい児の受け入れを行っています。

小学校児童数に対する入所率は、市全体で9.9%となっており、入所率は学区で差が見られます。

学年別の入所率は、1年生の15.2%が最も高く、学年が上がるに従って入所率は低下しています。

図表18 放課後児童クラブ

クラブ名	開設場所	対象校区
なかよしクラブ	東こどもの家	東校区
どろんこクラブ	西こどもの家	西校区
あおぞらクラブ	南こどもの家	南校区
ひまわりクラブ	北こどもの家	北校区
つくしクラブ	神守こどもの家	神守校区
わんぱくクラブ	蛭間こどもの家	蛭間校区
そよかぜクラブ	高台寺こどもの家	高台寺校区
たんぽぽクラブ	神島田こどもの家	神島田校区

資料: 児童課



図表19 放課後児童クラブの入所児童数（単位：人）

学童クラブ名	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	21→25 年度 の増減
なかよしクラブ	73	72	68	72	72	-1
どろんこクラブ	66	56	53	49	48	-18
あおぞらクラブ	49	46	44	37	32	-17
ひまわりクラブ	58	57	60	50	60	2
つくしクラブ	38	34	30	28	38	0
わんぱくクラブ	53	37	21	25	26	-27
そよかぜクラブ	21	26	26	29	29	8
たんぽぽクラブ	66	49	48	44	52	-14
合計	424	377	350	334	357	-67

図表20 平成 25 年度放課後児童クラブの入所率（単位：人、％）

学童クラブ名	入所児童数	小学校児童数	入所率
なかよしクラブ	72	698	10.3%
どろんこクラブ	48	609	7.9%
あおぞらクラブ	32	525	6.1%
ひまわりクラブ	60	298	20.1%
つくしクラブ	38	495	7.7%
わんぱくクラブ	26	293	8.9%
そよかぜクラブ	29	224	12.9%
たんぽぽクラブ	52	462	11.3%
合計	357	3,604	9.9%

図表21 平成 25 年度学年別放課後児童クラブの入所率（単位：人、％）

学年	入所児童数	小学校児童数	入所率
1年生	87	572	15.2%
2年生	66	536	12.3%
3年生	70	584	12.0%
4年生	50	618	8.1%
5年生	43	655	6.6%
6年生	41	639	6.4%
合計	357	3,604	9.9%

資料：児童課

※入所児童数4月1日時点、小学校児童数5月1日時点(特別支援学級の生徒を除く)

## 2-6 子育て支援センター

本市は、子育て支援センターを西地区、東地区にそれぞれ1か所ずつ設置しています。

子育て家庭に対する育児不安等について相談指導、子育てサークル等への支援、地域の保育ニーズに応じた事業の充実及び家庭で保育を行う人への育児支援を図る施設で、対象者は、就学前の乳幼児とその保護者です。

図表22 子育て支援センター

名称	所在地	開所日	時間
西地区子育て支援センター	上之町 1-60(総合保健センター 1階)	月～金曜日(祝日、12/29～1/3を除く)	午前9時～12時 午後1時～4時
東地区子育て支援センター	菟原町椋木 5(生涯学習センター 1階)	火～土曜日(祝日、12/29～1/3を除く)	午前9時～12時 午後1時～4時

資料:児童課

## 2-7 児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所

児童発達支援事業所は、就学前の心身の発達に不安のある児童とその保護者に、通所による集団療育を行い、自主性と社会性を高め日常生活への適応能力の増進を図る施設です。

放課後等デイサービス事業所は、就学している心身の発達に不安のある児童が授業終了後又は休業日に、通所による集団療育を行い、自主性と社会性を高め日常生活への適応能力の増進を図る施設です。

図表23 児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所

名称	所在地	サービス種別		利用基準
		児童発達支援	放課後等 デイサービス	
かるがも園	東柳原町 3-69	◎		市内に居住する小学校就学前の障害児通所給付費の支給決定を受けた障がい児とその保護者
こどもサポートハウスびあ	橋詰町 1-17	◎	◎	
児童サポートセンターのびのび	本町 3-66-1	◎	◎	
児童デイサービス芳泉	神守町字中田面 57-1	◎	◎	
ネバーランドつしま	唐臼町郷裏 77-1		◎	
びーの	米之座町 2-14-3		◎	

資料:児童課

### 3 母子保健事業の状況

母子保健事業については、妊婦とその家族向けの教室（HAPPY マタニティ）や育児講座などの教育事業とともに、各種相談事業や妊娠中・育児中のご家庭へ保健師・助産師が家庭訪問する事業などで利用者数等の増加傾向が見られます。

図表24 母子保健事業（単位：人）

区分	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
母子健康手帳交付数	562	585	547	490	483
相談事業	514	723	730	991	795
教育事業	333	1,443	1,344	1,968	2,402
訪問指導	122	250	504	444	495

資料：健康推進課

## 4 ニーズ調査結果等に基づく今後の課題

### (1) ニーズ調査の概要

本調査は、子ども・子育て支援法に基づく「津島市子ども・子育て支援事業計画」の策定に当たり、就学前児童及び小学生の各保護者を対象に、教育・保育や子育て支援等のニーズを把握するために、平成25年10月に次の内容により実施しました。

図表25 ニーズ調査の概要

対象	調査内容	調査方法
①就学前児童の保護者	<p>就学前児童の保護者を対象とする調査は、国から利用希望の把握方法のひな形が示されており、内容としては、国から示されたひな形を基礎とし、市独自の質問項目を一部加えた次のような内容です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① お子さんご家族の状況</li> <li>② お子さんの育ちをめぐる環境</li> <li>③ 保護者の就労状況</li> <li>④ 平日の保育園や幼稚園などの利用</li> <li>⑤ 病児・病後児保育</li> <li>⑥ 休日等の保育園や幼稚園などの利用</li> <li>⑦ お子さんの一時預かり</li> <li>⑧ お子さんの宿泊を伴う一時預かり</li> <li>⑨ 子育て支援サービス全般</li> <li>⑩ 小学校就学後の放課後の過ごし方</li> <li>⑪ 子育て全般</li> </ul>	<p>郵送配付・回収及び就園児は各園を通じた配付・回収</p>
②小学生の保護者	<p>次のような内容です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① お子さんご家族の状況</li> <li>② お子さんの育ちをめぐる環境</li> <li>③ 放課後の過ごし方</li> <li>④ 子育て支援サービス全般</li> <li>⑤ 子育て全般</li> </ul>	<p>各学校を通じた配付・回収</p>

調査の結果、回収率は①就学前児童の保護者で59.7%、②小学生の保護者で87.9%となっています。

図表26 ニーズ調査の回収結果

対象	配付件数	回収件数	回収率
①就学前児童の保護者	1,667	995	59.7%
②小学生の保護者	552	485	87.9%

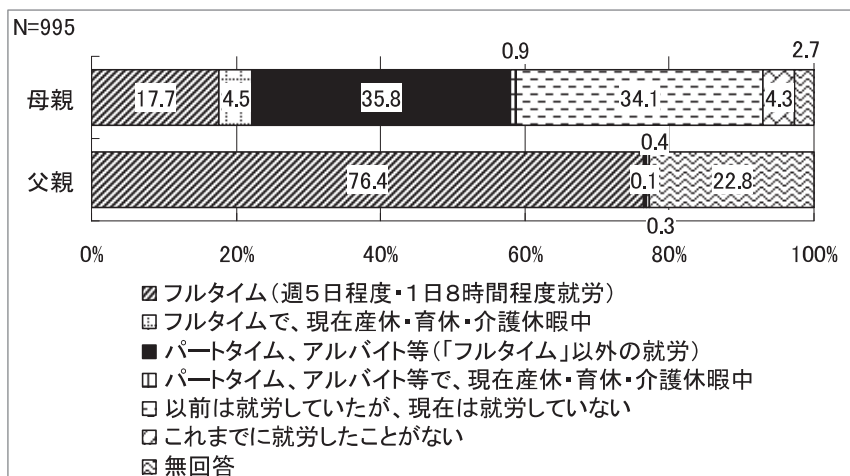
## (2) 今後の主な課題

- 出産や子育てを行う年齢層の女性における労働力率の上昇を踏まえつつ、3歳未満児から利用できる保育等サービスの充実と、働きながら子育てできる、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた企業への働きかけ
- 病児保育、一時預かり、放課後児童クラブ（学童保育）など、ニーズに応じた子ども・子育て支援に関わる事業の充実
- 保護者における「病気や発育・発達に関すること」への不安や関心の高まりを踏まえた、母子保健の充実

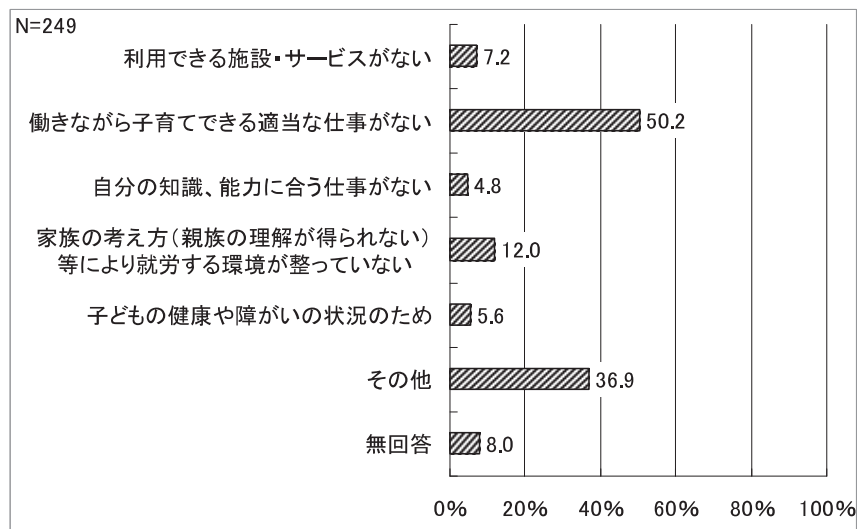
### 《保護者の就労状況》

- ▶ 母親の就労状況は、「パートタイム、アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）」との回答が 35.8%。「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 34.1%、フルタイム（週5日程度・1日8時間程度就労）」が 17.7%と続いています。
- ▶ 母親が現在働いていない理由は、「働きながら子育てできる適当な仕事がない」が 50.2%と最も多く、次いで「その他（子どもがまだ小さい、子育てに専念したい、幼稚園に入るまでは自分で育てたい 等）」が 36.9%と続いています。

図表27 《保護者の就労状況》【就学前児童の保護者調査】



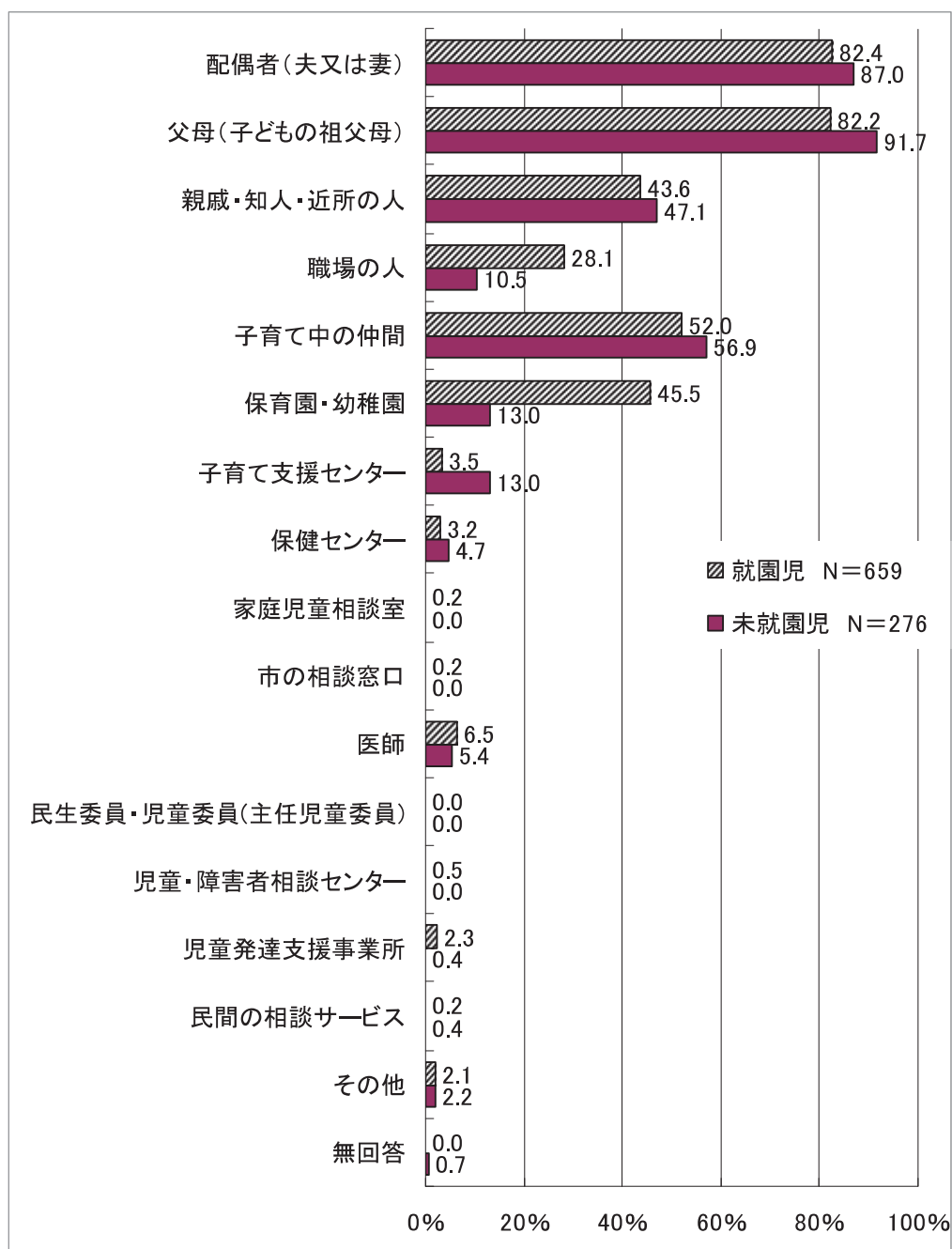
図表28 《母親が現在働いていない理由【複数回答】》【就学前児童の保護者調査】



## 《子育てについての相談先》

- ▶ 子育てについて気軽に相談できる先は、就園児の場合は「保育園・幼稚園」との回答が 45.5%、未就園児の場合は「子育て支援センター」との回答が 13.0%となっています。

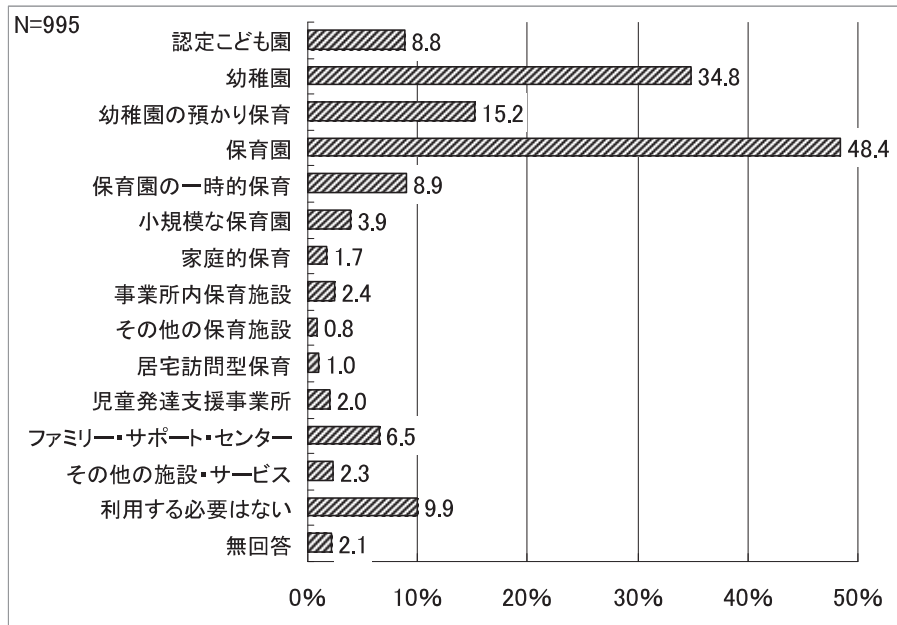
図表29 《子育てについての相談先 [就園児・未就園児別クロス集計結果]【複数回答】》【就学前児童の保護者調査】



## 《平日に定期利用する施設・サービスの今後の利用意向等》

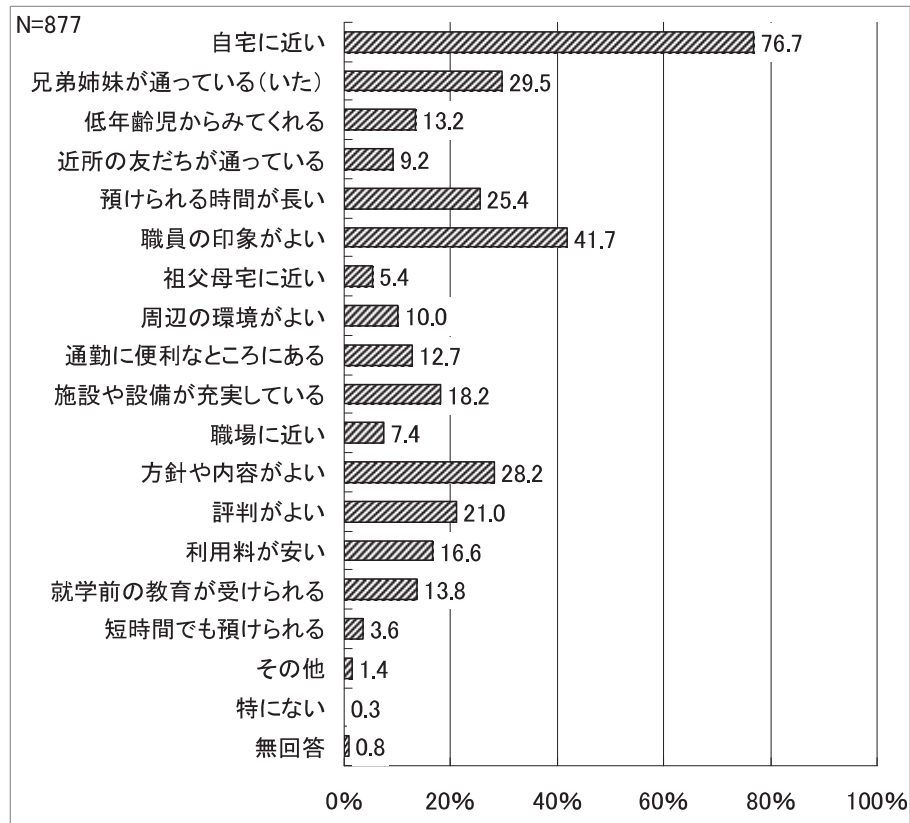
- ▶ 今後、お子さんが平日に定期利用したい施設・サービスは、「保育園」との回答が 48.4%と最も多く、次いで「幼稚園」が 34.8%と続き、「幼稚園の預かり保育」が 15.2%となっています。また、「認定こども園」については、利用希望は 8.8%となっています。

図表30 《平日に定期利用する施設・サービスの今後の利用意向【複数回答】》【就学前児童の保護者調査】



- ▶ 施設・サービスを選ぶときに重視する点は、「自宅に近い」との回答が 76.7%と最も多く、次いで「職員の印象がよい」が 41.7%、「兄弟姉妹が通っている(いた)」が 29.5%と続いています。

図表31 《施設・サービスを選ぶときに重視する点【複数回答】》【就学前児童の保護者調査】



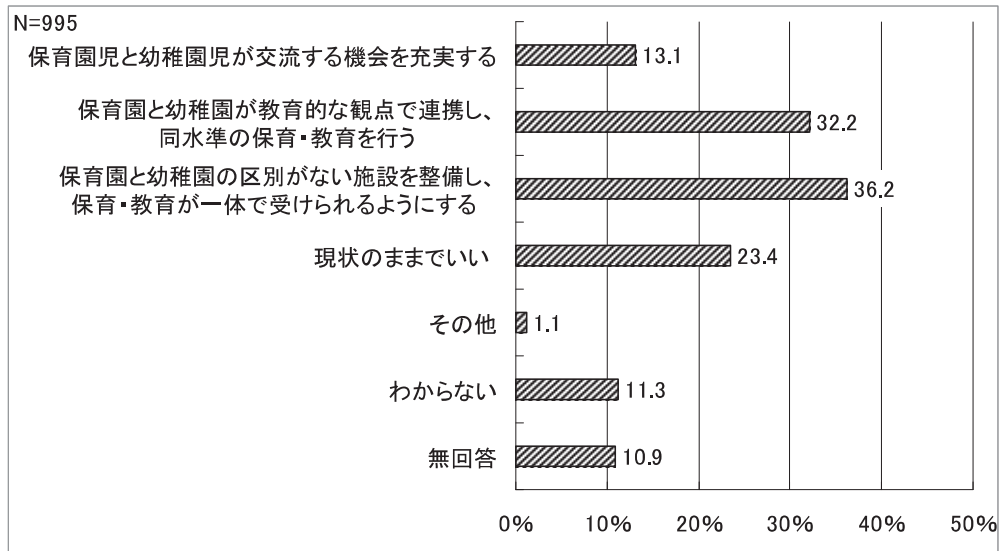




## 《保育園と幼稚園の関係について》

- ▶ 今後の保育園と幼稚園の関係については、「保育園と幼稚園の区別がない施設を整備し、保育・教育が一体で受けられるようにする」が36.2%、「保育園と幼稚園が教育的な観点から連携し、同水準の保育・教育を行う」が32.2%となっており、「現状のままでいい」との回答は23.4%となっています。

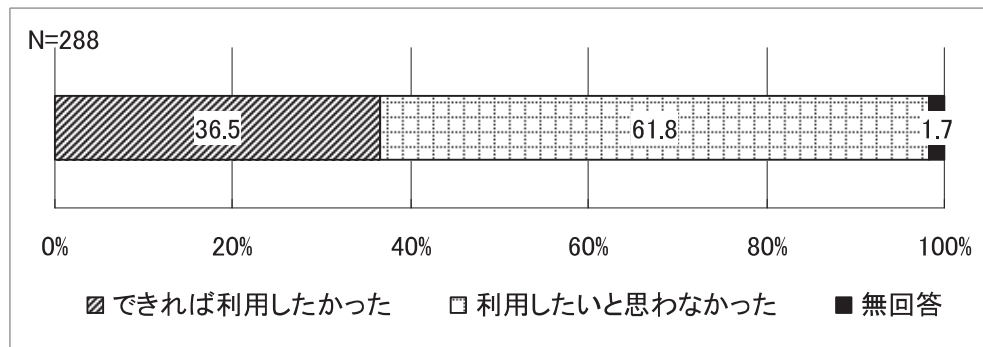
図表32 《今後の保育園と幼稚園の関係について【複数回答】》【就学前児童の保護者調査】



## 《子ども・子育て支援に関わる事業の利用意向》

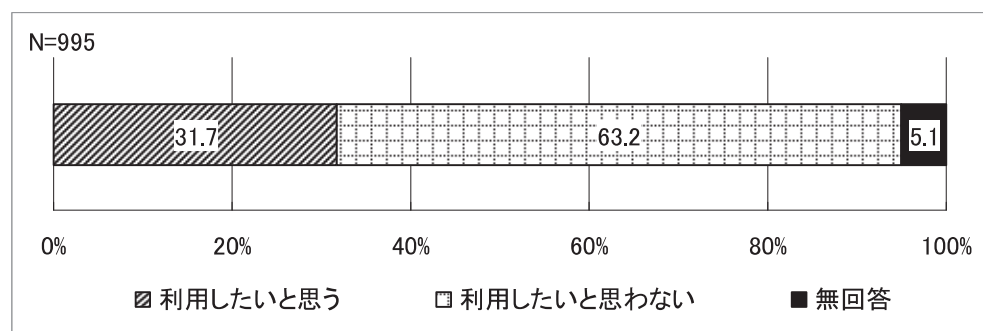
- ▶ 子どもの病気やケガの際、父親又は母親が休んで対応した方については、「(病児・病後児保育を)できれば利用したかった」との回答が36.5%となっています。

図表33 《病児・病後児保育を利用したいと思ったか【この1年間に子どもの病気やケガで園などを利用できなかったことがあり、父親又は母親が休んで対応したことがある方】》【就学前児童の保護者調査】



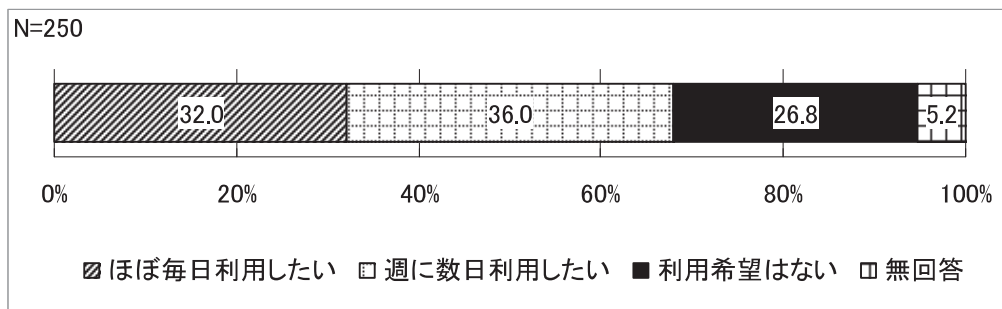
- ▶ 私用やリフレッシュ目的、冠婚葬祭や親の病気、あるいは就労のための一時預かりについては、「利用したい」との回答が31.7%となっています。

図表34 《一時預かりの利用意向》【就学前児童の保護者調査】



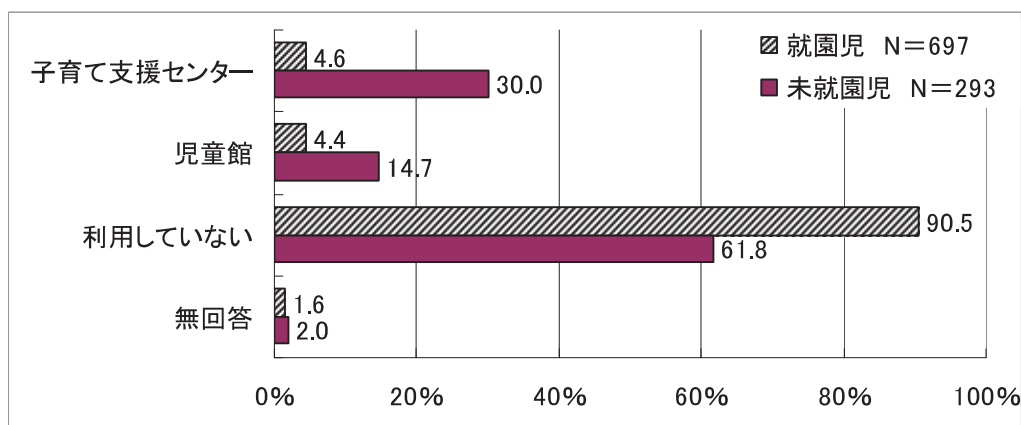
- ▶ 夏休み・冬休みなどの長期休暇中の幼稚園等の利用については、「週に数日利用したい」との回答が 36.0%、「ほぼ毎日利用したい」が 32.0%、「利用希望はない」が 26.8%と、3つの回答に概ね分かれています。

図表35 《長期休暇中の幼稚園等の利用意向》【就学前児童の保護者調査】



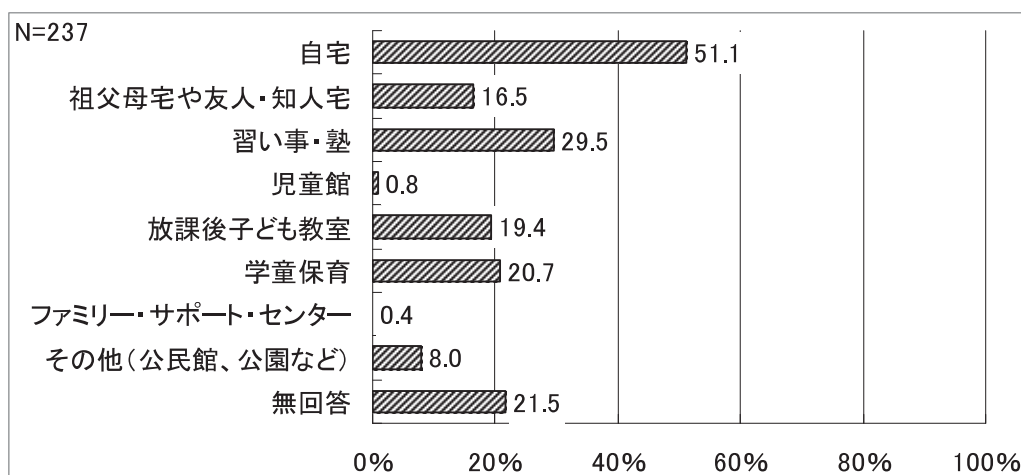
- ▶ 子育て支援センターや児童館の利用状況は、未就園児では「子育て支援センター」との回答が 30.0%、「児童館」が 14.7%となっています。

図表36 《子育て支援センターや児童館の利用状況 [就園児・未就園児別クロス集計結果] 【複数回答】》【就学前児童の保護者調査】



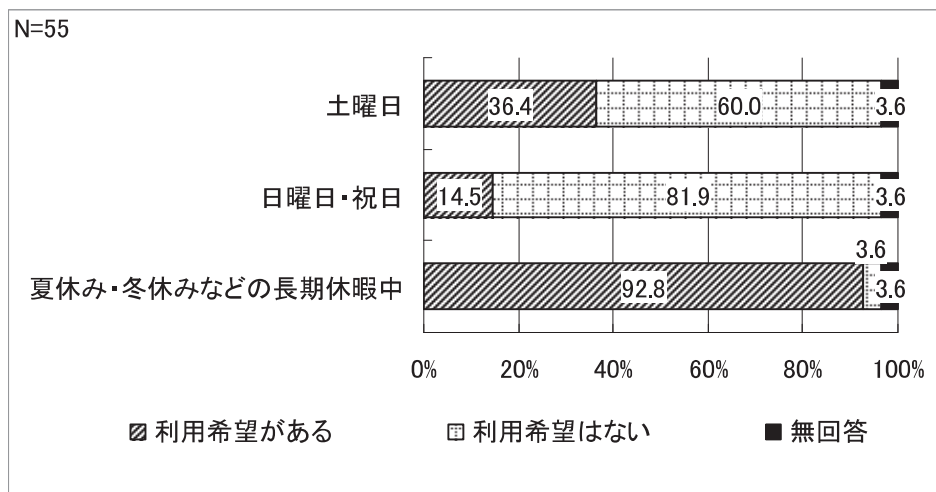
- ▶ 小学校就学後の放課後の過ごし方の意向は、「自宅」との回答が 51.1%と最も多く、次いで「習い事・塾」が 29.5%、「学童保育」が 20.7%と続いています。

図表37 《小学校就学後の放課後の過ごし方の意向【複数回答】》【就学前児童の保護者調査】



- ▶ 土曜日と日曜日・祝日、夏休み・冬休みなどの長期休暇中の学童保育の利用意向は、土曜日は、「利用希望がある」との回答が 36.4%、日曜日・祝日は同回答が 14.5%、夏休み・冬休み等は同回答が 92.8%と、長期休暇中の利用希望が高い状況です。

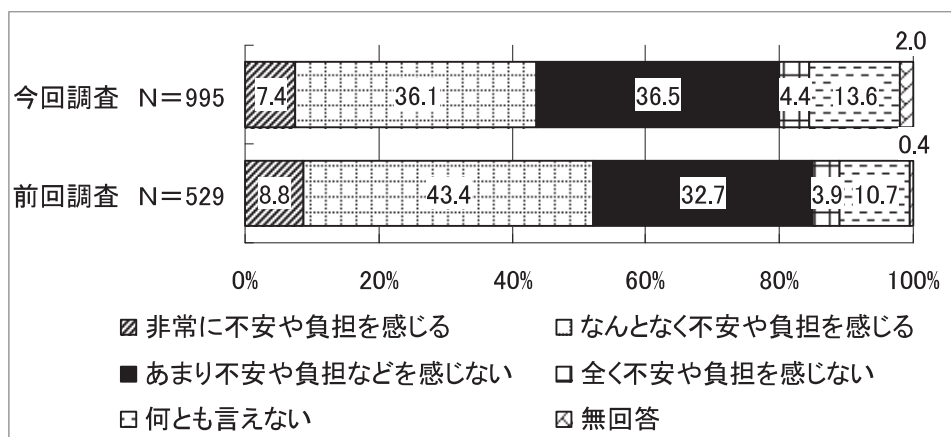
図表38 《土曜日と日曜日・祝日、夏休み・冬休みなどの長期休暇中の学童保育の利用意向》【小学生の保護者調査】



### 《子育て全般について》

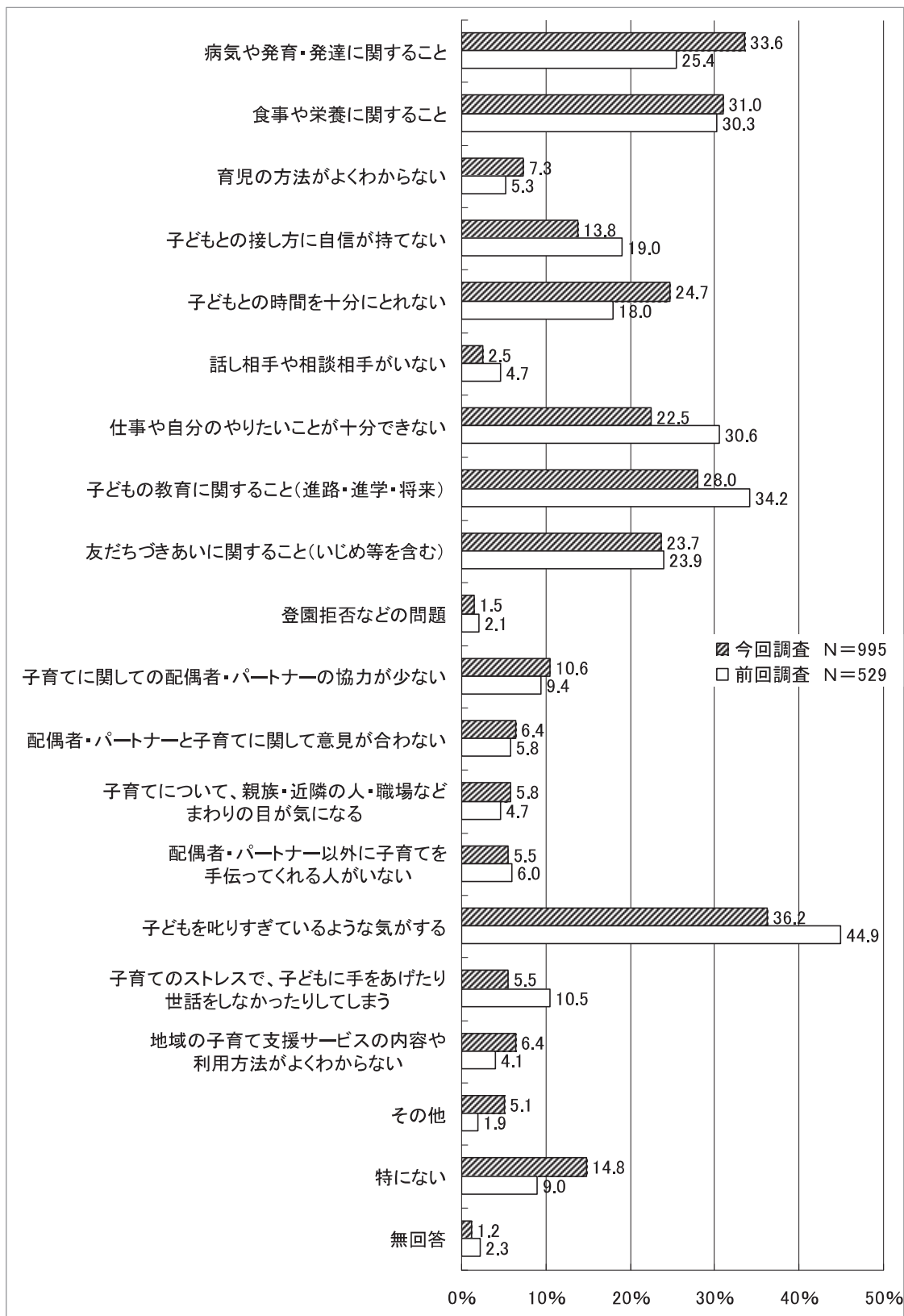
- ▶ 子育てをどのように感じる人が多いかについては、「非常に不安や負担を感じる (7.4%)」と「なんとなく不安や負担を感じる (36.1%)」を合わせると、不安や負担を感じている方が 43.5%で、半数未満となっており、前回調査 (平成 20 年の調査) と比べて「なんとなく不安や負担を感じる」との回答が減少しています。

図表39 《子育てをどのように感じる人が多いか》【就学前児童の保護者調査】



- ▶ 子育てに関して日常的に悩んでいること、気になることは、「子どもを叱りすぎているような気がする」との回答が 36.2%、「病気や発育・発達に関すること」が 33.6%、「食事や栄養に関すること」が 31.0%と、これらが上位となっています。前回調査と比べて、「病気や発育・発達に関すること」や「子どもとの時間を十分にとれない」との回答率が増加しています。

図表40 《子育てに関して日常的に悩んでいること、気になること【複数回答】》【就学前児童の保護者調査】



## 《子育てしやすい環境の整備のために、市・県・国に期待すること》

- 市・県・国に期待することは、「保健医療サービス」との回答が 52.7%、「子育てに伴う経済的負担の軽減」が 51.3%と、これらが上位 2 つで、次いで「子育てと仕事が両立できる労働環境の整備促進」が 42.0%、「子どもが犯罪の被害にあわないよう見守りの充実」が 40.9%と続いています。

図表41 《子育てしやすい環境の整備のために、市・県・国に期待すること【複数回答】》【就学前児童の保護者調査】

